



発行:令和3年7月29日  
茨城県青年海外協力隊を育てる会  
発行人:小川一成  
編集:広報文化委員会  
事務局:つくば市高野台3-6 〒305-0074  
JICA筑波センター内  
TEL 029(838)1111  
印刷:合資会社おおた



## 青年よ、時代を切り開け

茨城県青年海外協力隊を育てる会  
会長 小川一成

青年海外協力隊事業は昭和40年にスタートしました。

当時私は高校三年生で、世界をこの目で見たい、この足で歩きたいと言う思いは強く、協力隊の事業をニュースで知ったとき是非私も参加したいと思った事が昨日の事のように思い出されます。

願いは叶わなかつたけれども、この思いが高じて2年後の大学二年の時1年間休学して横浜からナホトカに上陸しシベリア鉄道でヨーロッパに向かいアフリカ、中近東、東南アジアをヒッチハイクで1年間旅をしました。54年前の事です。

この旅を通して行く先々で世界中の人々にお世話になった事が、その後の私の人生を決定づけました。

今度は私がお返しできる立場になつたらお返しをしよう。その思いで協力隊の応援団になっています。

協力隊員の皆さんにはコロナの影響で一時帰国を余儀なくされ、出口の見えない日々を送っている隊員もおられると思います。

「どうにもならない時はどうにもならないものです」

今我々はコロナウイルスと戦っていますが、人類の歴史は常にウィルスとの戦いの歴史でもありました。

14世紀のヨーロッパはペストが蔓延し人口の3分の1が亡くなり、当時絶大な権力を持っていたローマ教皇さえペストの前にはなすすべも無く、教会の権威は地に

落ち、その結果あらたな社会が出現したのがルネサンスです。ルネサンスはダビンチやミケランジェロなど多くの人材を輩出しました。

この時期、ニュートンもケンブリッジ大学で学ぶつもりだったのですがペストの流行で大学は休校になり、やむなく故郷に帰った彼は、そこでリンゴが木から落ちるのを見て「万有引力の法則」を発見しました。何が幸いするかわかりません。

協力隊の皆さんもどうしたらよいのか戸惑っていると思いますが「なるようにしかならない」と開き直って自分を見つめ直す良い機会だと思います。

今や世界は新型コロナで混乱していますが混乱の後にはあらたな時代が始まる。ペスト後のルネサンスにダビンチやニュートンが現れたように、新しい時代は協力隊の皆さんの方々が時代を動かし切り開いて行って欲しいと思います。皆さんの豊かな能力に期待しています。



## 地域活動仲間のみなさま

初代事務局長 笠原 岳夫

本年はコロナ災難の年でしたが如何お過ごしでしょうか。私、このたび県知事賞を授受いたしましたのでご報告とともに御礼をお伝えいたします。

ふりかえれば当地入植以来40余年、私の地域活動は多くの仲間に恵まれ、『皆さまと一緒に』汗を流してこられた結果が受賞に繋がったのだと理解しております。同志/関係者の皆さま本当にありがとうございました。同時に自分のわがままを許してくれた家族の支援の賜物もありました。感謝です。

私は、駐在を含む勤務や地域活動等々で多くの外国（主として途上国）を体験、各地の仲間と目線を合わせて語り合い～この素晴らしい国＝「日本」を外部からも見てまいりました。この機会に昭和13年生まれの老爺より～以下ラストメッセージをお伝えいたしましたく～

政府はつくば大学に二千人超の留学生を招く努力を惜しまないのに、なぜ同数の日本人学生を海外に留学させる努力を怠っているのか？最近の留学生数の収支バランスは：実に約三倍の入超になってしまっていること、実に心配です。（文科省HPより）

日本人/日本の文化こそがこれから世界の平和や/平等に貢献していくであろうと考える時、「国際人」の養成は日本の急務であり、地域活動の中にもなにがしかの役割があると考えます。今回自分の受賞の理由となった「JICA 青年海外協力隊」やNGOによる支援も視野に入れながら、これまで同様一緒に考え・行動を試みていきたいと考えております。

この機会に、以下に私の活動経過等を振り返り、反省し～今後の更なる一歩を考える参考にしたいと考えます。これからもご指導・ご鞭撻を賜ります様宜しくお願ひ申し上げます。

（誌面の関係から項目1.～6.及び8.～9.は省略させていただきました）

7.青年海外協力隊活動の支援：JICA 国際協力機構の協力隊活動は残念なことに現在は新形ウイルスの影響で中断し隊員は帰国しております。一刻も早く国際援助の最先端の現場での隊員活動が再開されることを祈っています。

私は多くの市民に見守られた協力隊員が～途上国で汗を流し～成長し～将来の日本の途上国援助等の重要な国策の実施業務の中心人物に育ってくれることが夢です。

2020年はウイルス騒動で大変な年になってしまいました。くれぐれもご自愛を。皆様と新しい夢を持って活動できる新年が迎えられますことを祈っております。

2020年12月

【事務局から：表彰内容・理由等については県ホームページ「令和2年度茨城県表彰」をご覧ください】



当会名誉会長の県知事と笠原氏ご夫妻

## 活動報告

### 世界一暑い国での“ENDOKAI”

「社会や世界とどのように関わり、どう生きるか？」目まぐるしく変化する時代の中で、もっと世界を知り、もっと学びたいと思う自分がいました。派遣が決まった国はジブチ。インターネットで調べてみると「世界一暑い国」とのこと。実際にジブチ空港に降り立った時に感じたあの暑さは今でも忘れられません。この国で約2年間やっていけるのかと不安になったのを覚えています。

任国ジブチで、私は地域開発センターと呼ばれる施設に配属となりました。同センターは、スポーツや文化活動を通じ、地域の青少年の健全育成を図ることを目的としています。ジブチのような開発途上国の学校では、図工や音楽等を学ぶ機会が少ないため、同センターは情操教育を提供する役割も担っています。

私はジブチ市内に13ヶ所ある各センターを巡回しながら、それぞれの取り組みの充実化を目的に活動を進めました。活動内容は多種多様です。環境絵日記（きれいな自分達の街をイメージして描く絵日記）、リコーダー指導、喫煙防止啓発活動、日本語や英語の語学教室の開講、そして日本文



地域開発センターの子どもたち

## 活動報告

### 相撲でブラジルと日本をつなぐ

皆さん、こんにちは。私は2018年7月より日系社会青年ボランティアとしてブラジルで相撲指導の活動をしていました。

私がJicaに興味を持ち始めたのは大学4年生の頃で、競技者として相撲をしてきたことを誰かのために役立てたいと考え、Jicaを志願しました。

ブラジルでの主な活動は、ブラジル国内にある相撲道場や小学校を巡回し、相撲を教えるという内容でした。ブラジルで初めての相撲ボランティアということもあり、現地に行かないでわからない状況でしたが、活動をしていく中でいろいろな発見がありました。私が所属していたのはブラジル相撲連盟で、ブラジル全土に11個の土俵があり、競技者は約300人ととても大きな組織です。この背景にはブラジルと日本の長い歴史と繋がりの中で日本人が相撲を継承してきたことがあります。現在、相撲の指導者のほとんどが日系人で、競技者はほとんどブラジル人が占めています。

また私は活動していく中で、何を目標に指導していくかと考えた時に日本とブラジ



サンパウロでの相撲稽古

## 帰国隊員の県知事表敬訪問に同行して

事務局長 小松崎 弘尤

### 2018年度 1次隊 / ジブチ / 青少年活動 遠藤 浩之

化交流会といったイベントなどを企画しました。全センター合同の「世界一暑い国での運動会」も実施しました。教育的体育行事であることを現地のスタッフにも理解してもらうため、この運動会をENDOKAIと名付けました。Education (教育) のEとUNDOKAI、そして私の苗字を掛け合わせたものです。このイベントは大いに盛り上がり、たくさんの子ども達の輝く笑顔に出会うことができました。

私は2020年3月に任期を終え、コロナ禍で一時日本退避となった他の隊員とともに帰国しました。帰国後は、他のジブチ隊員と協力しながら、ジブチ人に向けたオンラインでの日本語教室を開始しました。日本へ関心をもってくれているジブチ人がいることを嬉しく思います。コロナ禍だからこそ、SNSが大きな役割を果たしています。配属先の同僚からは、今でもときどきENDOKAIを実施しているなどの近況連絡があります。気候や文化・言語の違いから辛いことやうまくいかない事がたくさんありました。それでも、それら全ての経験が今の私につながっています。



全センター合同の運動会

### 2018年 1次隊 / ブラジル / 相撲 飯田 浩之

ルを繋げる活動をしていくことを意識していました。ブラジルで幅広い年齢層に相撲指導してきましたが、特に小学校で相撲指導を1週間の内に多く行っていたので、より多くの子ども達に相撲を知ってほしいという思いから、ブラジル国内の新聞に私の活動を紹介していただき競技人口増加に繋げていけたらと思っていました。活動から1年3か月が経った時に日本の相撲関係者から『ブラジルの新聞をみて日本の試合に招待したい』というお言葉をいただき小学生対象の相撲世界大会に参加させていただきました。子ども達にとってすばらしい経験と今後のブラジル相撲の活性化に繋げられたと思っています。

現在、ブラジルはコロナウイルスで相撲の練習ができていないと聞いていますが、いつかまた相撲世界大会が日本で行われる際には、ブラジル代表をサポートしていきたいと思っています。



小学生世界大会（右端飯田隊員）



小学校での相撲教室

2020年10月27日JICA筑波センターの渡邊 健 所長・藤田 敏生国内協力員と新型コロナウイルスのため任期途中（帰国中に任期満了）に帰国した遠藤浩之隊員（ジブチ共和国・青少年活動）、飯田浩之隊員（ブラジル・相撲）の知事表敬訪問に出席しました。

国際渉外チームの石寺チームリーダーをはじめチームの方々の感染対策指導により、知事応接室で面談しました。

遠藤・飯田両隊員が自己紹介し任地での状況・帰国後の活動について報告され、続いて渡邊所長より、本県の協力隊員の状況が報告され、私も育てる会について説明しました。

懇談に入り、知事から隊員に活動の状況について質問され、遠藤隊員はジブチ共和国での青少年活動について、飯田隊員はブラジルサンパウロでの相撲指導について報告されました。知事も協力隊について関心が高まったものと思います。

懇談終了後、部屋の出口で一人一人を見送りいただき非常に感動した知事表敬訪問でした。

隊員の報告が本誌に掲載されています。



帰国後表敬訪問  
左から2人目遠藤さん  
4人目飯田さん

## JICA海外協力隊派遣実績（茨城県）

	国 数	人 数	うち女性数
青年海外協力隊	派遣中 累 計	29 83	40 924 ( 18) (403)
シニア海外ボランティア	派遣中 累 計	1 46	1 ( 0) 172 (25)
日系社会青年ボランティア	派遣中 累 計	2 6	2 ( 1) 25 (13)
日系社会シニアボランティア	派遣中 累 計	0 5	0 ( 0) 8 (5)
合 計	派遣中 累 計	32 —	43 (19) 1129 (446)

※2020年3月31日現在 (JOCV事務局)

## 受賞おめでとうございます！

祝

当会の前会長中川清様が令和3年春の叙勲「旭日小綬章」を受けられました。

祝

当会の初代事務局長の笠原岳夫様が国際協力事業で「茨城県知事賞」を受けられました。

## これまで・これからの事業について

### ■ これまでの事業報告

令和2年10月27日(火)帰国隊員県知事表敬訪問2名に同行

後期運営委員会他の会議はすべて中止とし、メールで情報交換

### ■ これからの事業

令和3年4月10日(土) 令和3年度第1回運営委員会 (JICA筑波センター)

5月 1日(土) 第2回運営委員会 (JICA筑波センター)

6月 3日(木) 令和3年度第1回理事会 (JICA筑波センター)

6月下旬 令和3年度通常総会 (JICA筑波センター)

6月下旬 広報紙「つくばね」64号発行

7月 3日(土) 第3回運営委員会 (JICA筑波センター)

7月中旬 1次隊 県知事表敬訪問・壮行会 (県庁・JICA筑波センター)

8月 7日(土) 第4回運営委員会 (JICA筑波センター)

9月 4日(土) 第5回運営委員会 (JICA筑波センター)



### 事務局だより

#### 会員状況 ( ) は家族会員

区分	令和2年8月末現在	令和3年4月末現在
個人	97 (2)	97 (2)
団体	19	19
計	116 (2)	116 (2)

### | 編集後記 |

コロナ禍が相変わらずの状況で、当会の活動もままならない状態が続いています。

そんな中でも、“育てる会ニュース”や“クロスロード”にも掲載されている通り、昨年11月頃から徐々にではあります  
が、協力隊員の再派遣が始まっています。

ワクチン接種も少しずつ軌道に乗りつつあるようですが、  
微かにトンネルの出口が見えてきたような気がします。

“つくばね”的発行も元の軌道に戻れるように状況を十分に  
観察して進めていきたいと考えています。